2007 年度

科目名	対象学科・学年	担当者
ジェンダー論（総合講座）	文学部全学科３回生 教育教福３回生	日合　あかね

授業テーマ
女性に対する偏見・差別の現状と構造を見つめる。

授業の概要と目標
この授業は、ジェンダー論が指摘してきた社会的な問題についての知識を深めるとともに、現在、女性が置かれた状況について、特にセクシュアリティに焦点をあてつつ、その原因（相違点・共通点）を考えることをねらいとする。

評価方法
学期末レポート
授業内アンケート

テキスト	著者	出版社
適宜指示する。		

参考書	著者	出版社
適宜指示する。		

授業スケジュール・内容

１．性的自由（自律・自立）とは何か
現在、女性を読者としたポルノグラフィックな雑誌が多数発刊されている。しかし、それらの内容を見てみると、これまでフェミニズムが批判してきたような、マゾヒスティックなものが多い。この現状を、性的自由という観点からどうとらえるべきか。

２．性的自由（自律・自立）とは何か（その2）
前回の続き。
「女性のマゾヒズム」について、さまざまな定義づけがなされてきたが、いくつかの代表的な理論を紹介し、それを踏まえたうえで、「女性のマゾヒズム」を題材とし、性的自由はどのようなものであるか（あるべきか）を考える。

３．なぜ結婚するのか
結婚とはどんなものだろうか。何のためにするのだろうか。
結婚観・家族観は徐々に変化してきたが、理由のひとつに「女性の社会進出」が考えられる。
では、女性の社会進出が、結婚や家族にどのように影響をおよぼしているのか。

４．なぜ結婚するのか（その2）――憲法24条について
憲法24条についての議論を紹介する。
同性パートナーシップの問題や夫婦別姓、子どもの養育の問題との関連において、憲法24条について議論する。

５．ジェンダーフリーは可能か
昨今、ジェンダーフリーという考え方に対しバックラッシュと呼ばれる現象が起きている。
ここでは、ジェンダーフリーが実際にはどのようなことを意味しているのかを考察し、ジェンダーフリーの意義とその問題点について、具体例をあげて議論する。

６．ジェンダーフリーは可能か（その2）
前回の続き。
前回で紹介した具体例をもとに、「男」「女」というジェンダーは本当になくすべきなのか、なくすことができるのか、ということを、各自考えてもらい、議論する。

７．討論
これまでの授業内容を踏まえ、グループ別に性的な自立とはどのようなものかを議論する。